

制度の狭間にある長期ひきこもりの 当事者と家族を支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用したボランティア団体ハートハースの取り組みを紹介します。

ひきこもりの長期化・高齢化が社会的な課題に

平成31年に内閣府が公表した「生活状況に関する調査」の結果によると、40〜64歳のひきこもり状態にある人は61万人いると推計され、ひきこもりの期間は7年以上が半数を占めるなど、ひきこもりの長期化・高齢化が進んでいる。

近年は、80代の親が50代の子どもの生活を支えるという「8050問題」として指摘されており、こうした親子が地域社会から孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが増えていることが社会課題となっている。

奈良市にあるボランティア団体ハートハースは、「分かちあいのなかに愛を」という理念のもと、不登校やひきこもりの支援活動に取り組んできた。団体の設立経緯は、平成6年7月にキリスト教の精神に基づき、青少年の教育活動や社会事業などを展開する奈良YMC Aが不登校生のための「心のフリースクール」を開校した際、その活動をサポートするボランティア団体として発足したことに始まる。

現在の主な活動としては、「心のフリースクール」で実践する各プログラムのサポートをはじめ、ボランティアの研修事業や情報誌の発行、不登校やひきこもりの子どもを抱える親のネットワークの場「子育てトーク21」を定期的に開催している。

さらに、平成27年から奈良市社会福祉協議会（以下、奈良市社協）と協働して「ひきこもりサポーター養成講座」の基礎研修・応用研修を開催。平成28年には、ひきこもり当事者などの若者を対象にした居場所「あなたのまんま」を奈良市社協と共同で運営している。

居場所の運営について、ハートハース統括の大竹靖子氏は次のように語る。「居場所では月2回、奈良市社協の施設を

WAMからひと言

これまでのひきこもりサポーター養成とその組織化を基盤とし、本事業ではチームによる「訪問支援活動」を実現できました。「訪問支援活動」では、オープンダイアログ（開かれた対話）の手法を用いた支援により、当事者を居場所や就労につなげる成果もあげています。県や市、社協、生協との連携も作られつつあり、他地域や他団体の参考になる取り組みとして高く評価しています。

活用して、ひきこもり当事者などの若者に自分のペースで過ごしたり、同じ思いを共感できる場所を提供しています。養成したひきこもりサポーターで組織した『まんまの会』のメンバーが中心となり運営しています。また、ひきこもり当事者・家族の来所相談や親の会を定期的に開催するほか、就労支援として『ならコープ』に協力していただき、利用者の希望に応じて中間的就労を体験する機会も提供しています。

長期ひきこもり者の訪問支援活動に取り組む

同団体は、平成30年度のWAM助成を活用し、「ひきこもり者に対する訪問支援活動事

業」を実施した。

同事業は、ひきこもりの長期化・高齢化が社会問題となるなか、ひきこもりの公的支援は39歳までであることが多いという現状に対し、奈良市社協と協働して長期ひきこもり者とその家族を対象にした、チームによる訪問支援を継続的に行うことにより、これまで解決の糸口が見い出せなかった長期ひきこもり者の「8050問題」に立ち向かう一歩となることを目指した。

チームによる継続的な訪問支援の必要性に



奈良市社協と共同運営する若者の居場所「あなたのまんま」。相談対応や調理体験などのイベントのほか、社会とつながる独自の就労支援を行う



ついで、奈良市社協地域支援課係長の後藤文造氏は次のように語る。

「奈良市内においても、ひきこもりに関する相談件数が増加し、『8050問題』に該当するケースが多くなっています。ひきこもり当事者を抱える家族が行政の相談窓口に行っても『まずは本人を連れてきてください』といわれ、手立てがないという相談を受けることも少なくありません。奈良市社協では、これまでもひきこもり支援として当事者へのアウトリーチを行ってきましたが、ひきこもり支援は信頼関係を築くことが重要なため、非常に時間がかかり、継続的に支援していくことは時間やマンパワリーのにも限界があることに加

り支援は信頼関係を築くことが重要なため、非常に時間がかかり、継続的に支援していくことは時間やマンパワリーのにも限界があることに加

え、個人で対応して拒絶されてしまうと、打つ手がなくなってしまうことから、チームによる訪問支援の必要性を感じていました。そのため、同じ思いをもつハートハースと協働して、長期ひきこもり者の継続的な訪問支援に取り組みました」。

家庭環境を考慮した訪問支援チームを編成

訪問支援の実施にあたっては、居場所の来所相談（29回実施）で家族から要請を受けた11人のひきこもり当事者を対象とした。対象者の年齢層は20代前半から50代で、50代の男性が多く、ひきこもりになったきっかけは、

事業概要

助成額
103万2千円

平成30年度事業

ボランティア団体ハートハース

ひきこもり者に対する訪問支援活動事業

【事業概要】

長期ひきこもり者や家族に対する公的な支援が不足するなか、社会福祉協議会と協働してチームによる訪問支援を継続的に行うことにより、これまで解決の糸口が見い出せなかった長期ひきこもり者の「8050問題」に立ち向かう一歩となることを目指す事業



【実施内容】

◆長期ひきこもり者、家族を対象にしたチームによる訪問支援活動居場所で実施する来所相談で、家族から要請を受けた長期ひきこもり当事者に対し、チームによる訪問支援を継続的に行うことにより、信頼関係を深めながら同団体が運営する居場所の利用に結びつけるなど、社会とつながることを目指す



【成果】

- ◆11人のひきこもり当事者に対し、オープンダイアログの手法を用いながら、チームによる継続的な訪問支援を実施（訪問支援回数：60回）
- ◆当事者2人と信頼関係を構築して対話することが可能となり、家族を交えて今後について話しあうことを目標にしている
- ◆助成事業を通して、ひきこもり支援の必要性が周知され、行政との連携・協力体制の強化につながった

行政からひきこもり当事者の紹介を受けるケースが増えるとともに、令和2年度に奈良市主催の「ひきこもりサポーター養成研修」が実施されるに至った

さらに、若者のひきこもり・ニート化を防ぐための相談窓口である奈良市若者サポートセンター「Restartなら」で、スタッフ4人が支援員として家族・当事者の相談対応を行っている



年齢に関わらず就職活動のつまづきや職場の人間関係などが要因となったケースが多かったという。

ひきこもりの課題解決に向けて、いかに当事者を社会に結びつけるかが重要であるため、同団体がこれまでの活動で培ったオンラインアログ(開かれた対話)の手法を用いたチームによる継続的な訪問支援によって、運営する居場所など、ひきこもり当事者を社会に結びつけることを目指した。

訪問支援の体制は、1人の当事者に対して、同団体と奈良市社協の職員、ひきこもりサポーターが4〜5人のチームを編



奈良市社協と共催した「ひきこもりサポーター養成講座」。養成したサポーターは居場所の運営や訪問支援活動にも携わっている



平成31年4月に開催した報告会は支援者を中心に50人が参加し、ひきこもり支援の必要性や取り組みなどを共有した



運営する居場所では、利用者の希望に応じて、ならコープと連携して中間的就労の場を提供



左から奈良市社協の大西真葵氏、ハートハウスの安田きみ子氏、駒恭子氏、磯林延氏、鈴木加寿枝氏

対話を重ねて 当事者のやりたいことを引き出す

成。訪問前に当事者の家族から家庭環境などの状況を聞き取り、傾聴スキルに長けた人、雰囲気が出る人、父親としての関わり方で話せる男性など、それぞれの家庭にマッチした支援者を考慮しながら組みあわせている。サポーターのなかにはひきこもり経験のある子どもをもつ親もいるため、親の立場を理解している人を配置することもあるという。

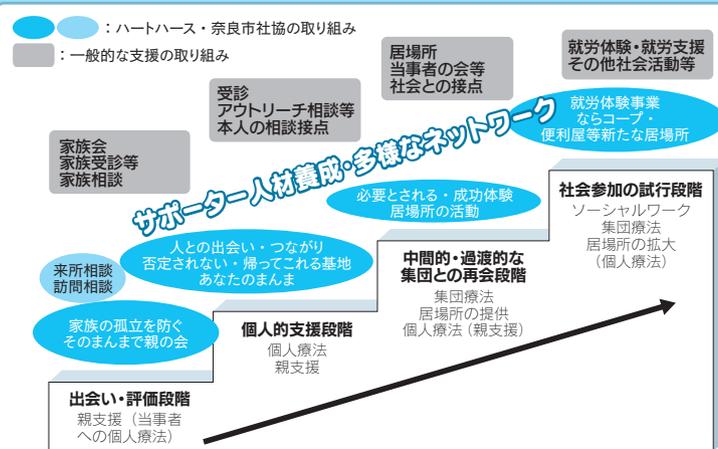
「訪問した際には当事者に声かけをしていきますが、最初はお会いできないケースがほとんどです。ひきこもり支援には時間がかかり、とくに長期化している当事者は社会や就労に対する不安が大きく、立ち直るまでにはひきこもっている期間と同じくらい時間がかかるといわれています。訪問支援を継続して少しずつ信頼してもらうことが重要となります。また、当事者ごとにチーム会議を開き、当事者へのアプローチ方法や支援方針などを検討しながら支援を行い、信頼関係

を構築することができた当事者には対話を重ねながら、本人がやりたいことを引き出していくことを心がけています。最終的には家族で話しあう機会をつくり、運営する居場所に限らず、社会とつながることを目標としています」(大竹統括)。

また、対話の際に1人しかいない支援者が親側に立ってしまうと、当事者に「自分が攻撃を受けるのではないかと警戒されることにつながるが、チームによる支援を行うことで、親と当事者を担当する支援者を分け、両者のケアをしながら対話できることが大きなメリットとなっているという。

助成期間中の訪問支援回数は全60回で、当

ひきこもり支援の諸段階



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。著作権者(独立行政法人福祉医療機構)ならびに著作権者の許可を得ない複製(コピー)、再配布を、固くお断りいたします。

「ひきこもり支援は、年齢が高くなり、ひきこもりの期間が長くなるほど課題解決の壁が高くなりますが、チームによる訪問支援を継続的に行う体制ができたことは非常に大きな成果だと感じています。奈良県の相談支援室からひきこもり当事者の紹介を受けるケースが多くなり、新たにつながった家族や居場所の参加者が増えています」(大竹統括)。

また、助成事業を通して、ひきこもり支援の必要性が周知されたことで、行政との連携・協力体制の強化につながっている。奈良市の広報紙に、運営する居場所の活動内容が掲載されたほか、同団体と奈良市社協の協力により、令和2年度に奈良市主催の「ひきこもりサポーター養成研修」が実施されるに至った。

助成事業を通じて 行政との連携・協力体制が強化

助成事業の成果として、継続的な訪問支援活動により、ひきこもり当事者と対話をする事が可能となり、ひきこもりの課題解決の一步につながる事ができた。

そのほかにも、助成事業では平成31年4月にひきこもり支援の必要性や活動内容の周知を目的とした報告会を開催し、支援者を中心に50人の参加があった。さらに、ひきこもり支援の取り組み、成果をまとめた報告書を作成し、行政や関係機関などに配布した。

就労だけでない出口が必要

ボランティア団体ハートハース
統括 大竹 靖子氏



平成30年度のWAM助成で長期ひきこもり者を対象にしたチームによる継続的な訪問支援に取り組み、ひきこもりの課題解決のきっかけにつなげることができました。支援の必要性が周知されたことで行政から紹介が増えるなど支援活動が広がっています。

一方、課題としては、ひきこもりが長期化している当事者は、年齢のこともあり就労への壁が高く、ひきこもり支援が就労のための支援になってしまうと課題の解決は難しいと感じています。平成31年度の助成事業で実施している「きづな屋」のように、ゆるやかに社会とつながる仕事づくりなど、さまざまな出口を用意することが大切だと思っています。

ゆるやかに社会とつながる 仕事づくりに取り組む

さらに、若者のひきこもり・ニート化を防ぐための相談窓口である奈良市若者サポートセンター「Restartなら」(通称・リスなら)で、ハートハースのスタッフ4人が支援員として週1回勤務し、家族・当事者の相談対応を行うなど支援活動の広がりをみせている。

同団体は平成30年度に続き、31年度の助成事業を活用し、長期ひきこもり者の訪問支援活動を継続するとともに、ひきこもり当事者が就労という観点だけでなく生きがいを感じることのできる仕事づくりに取り組んでいる。

「平成31年度は訪問支援活動を継続することに加え、UR都市機構と連携し、近隣にある

の高齢化の進行した団地に住む高齢者の生活の困りごとをひきこもり当事者が支援する『きづな屋』という事業を実施しています。このように、ゆるやかに社会とつながる就業の場をつくることにより、当事者は人の役に立ち、直接感謝の言葉をかけられることに生きがいを感じています。このような経験を積み重ねていくことが本人の力になるのではないかと考えています」(大竹統括)。

同団体の今後の取り組みに期待が寄せられる。

◆団体概要

〒631-0823 奈良市西大寺国見町2-14-1
TEL: 0742-44-2207
FAX: 0742-46-7550
URL: <https://heartearth1994.web.fc2.com/index.html>
設立: 平成6年7月
代表: 北林 静江

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくお祈いします!

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

